いわき市立大野中学校
学校だより 第９号

令和　３年　３月１２日（金）
発行責任者：校長　田中　淳一
TEL：0246-33-2233

教 育 目 標 ： 自立と貢献　～ 「問い」を発する生徒の育成 ～
育成を目指す資質・能力 ： 人間関係形成 × 社会参画 × 自己実現

第 74 回卒業証書授与式

３月１２日（金），第７４回卒業証書授与式を無事挙行いたしました。
校長からは以下のメッセージを式辞として贈りました。

「春風や闘志いだきて丘に立つ」

ふるさとのあたたかさに育まれ，新しい世界へ踏み出そうとする 18 名の卒業生の皆さん，ご卒業おめでとうございます。２年生の時は，ひ弱な印象が否めなかった皆さんも，３年生になってからは欠席もぐんと少なくなり，一泊とはいえ修学旅行にも全員揃って行くことができました。また，皆さんは，時間を守って行動する，清掃や係活動に誠実に取り組むことによって，心を整え，日常の積み重ねを自らの力に変えることができました。日々の暮らしには，細々とした作業が付きものです。これからも，日常生活の細部で手を抜かず，生きる上での根本に関わることを丁寧に扱うといった，足が地についた生き方を心がけてください。

ところで，卒業する皆さんに対して，私が申し訳なく思っていること，それは，「学校は楽しい」「失敗を恐れずに挑戦したい」「社会をよくするために何かをしたい」という人を増やすことができなかったことです。卒業する皆さんに直接働きかけることはもうできないので，やり残してしまった課題は，新２･３年生に返すことができるように努めていきます。また，社会で活躍する色々な人たちの知恵や力を借りながら，皆さんから出された難題を粘り強く追究していきます。

思うに，内に秘めた個性がとても豊かな卒業生の皆さんには，大人しく物静かな姿とは裏腹に，一人一人の深い所では，熱い熱い水脈のようなものが横たわっているように感じます。身体の奥の奥に秘められた，その水源にたどり着くためには，のみを手にこつこつと岩盤を削り，穴を深く掘っていくことが必要です。体力を酷使し，時間と手間をかけなくては，自らの水源を探り当てることはできません。まして，親や先生や友達などの他人が，あなたの深い所に横たわる水脈を，あなたの代わりに探り当てることはできません。自分という存在の地下深くに横たわる水源にまでたどり着くには，自分を深く深く掘り下げることが必要です。言うなれば，自分を「深掘り」するのです。

自分を深く深く掘り下げるには，例えば，栄養価の高い本を読んだり，本物の芸術や文化に触れたり，自分の思いや考えを言葉で表現したり，社会で活躍する大人と話をしたりするなど，多様なヒト・モノ・コトと出会い，そして考えるという作業が必要です。そういった作業をこつこつ

と続けることによって，自分の地下深くに埋もれている「善き物語」を見つけ出し，日の当たるところに引き出すことで，コロナなどの予期せぬ災いから，自分の命，そして他者の命までも守ることができるでしょう。そして，その間隙を縫って次の一手を考え、未来に繰り出せるように準備してください。

近年の自然災害や現在のコロナ禍は，私たちの社会の根っこにある様々な問題をあぶり出しました。災害やウイルスが招いた甚大な影響に対して，私たちは何を考え，どのように行動したのか。こうした想定外の出来事に，私たちはどのように立ち向かっていったのか。解決が困難な問題に直面したとき，そこで問われる力とは何か。若い皆さんは，目と心を大きく開いて学んでいってください。

結びに，卒業生の皆さんの心身の健康と今後の活躍を祈念し，式辞といたします。

情報モラル教室

２月１９日（金），生徒と保護者を対象にした「情報モラル教室」を開きました。講師には，医療創生大学教授で県教育委員会生徒指導アドバイザーを務める中尾剛先生をお招きしました。

中尾先生からは，「SNS やゲームによる依存症の怖さと健康への影響」について，豊富な事例をもとに，興味深いお話を大変分かりやすくご講義いただきました。

昨年１２月に実施した本校生徒へのアンケート調査の結果では，「平日家でゲームをする時間が１時間以上」の生徒の割合は６８％，「メールやインターネットをする時間が１時間以上」の生徒の割合は４８％となっています。「新聞を読んでいる生徒」の割合が１２％，「読書が好きな生徒」の割合が６４％にとどまっていることから，本校生徒の電子メディアやスマホへの依存傾向には注意する必要があると考えます。

また，「子どもと，スマホなどをする時の約束（ルール）を決めている」保護者の割合は６４％となっており，わが子の電子メディアとの付き合い方を心配する声も聞かれます。

今回の情報モラル教室が，デジタル社会の影が生み出す課題解決の一助となることを願ってやみません。

東日本大震災追悼集会

３月１０日（水），東日本大震災の発生から１０年の節目を迎え，本校においても追悼集会を開きました。集会では，被災の経験を本校２名の先生方から語っていただきました。

先月には，震災の余震と思われる大きな地震もありました。地球の時間軸は，人生の長さとは比較にならないくらいスケールが大きいため，日本列島の上に立っている限りは，大地震や津波への備えが欠かせません。また，私たち福島県民には，震災の直接的な被害に加え，風評被害や偏見・差別の問題とも向き合っていくことが求められています。

この追悼集会が，ふるさと“いわき”，ふるさと“ふくしま”の復興創生につながっていくことを願っています。